

算数の授業の板書の工夫

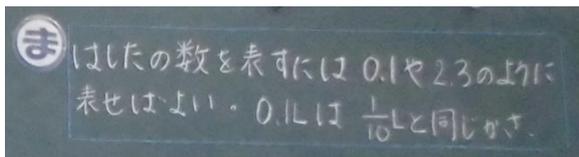
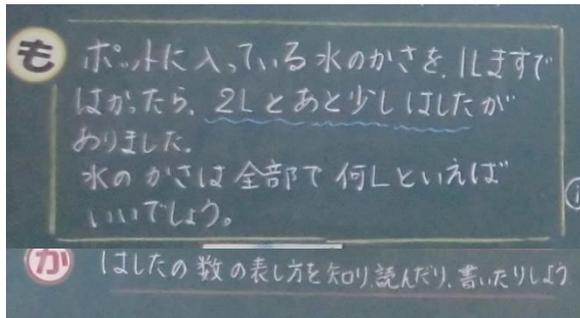
1 授業改善の視点

授業振り返り表より

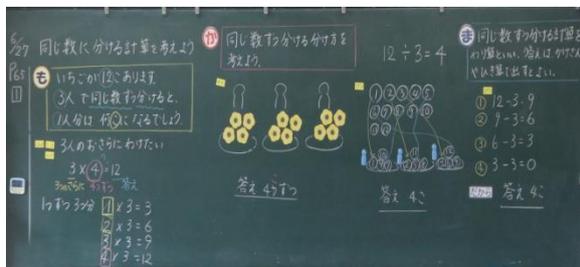
- ・ 板書の在り方

2 具体的な実践

(1) 色チョークを使った板書



(写真1、2、3)

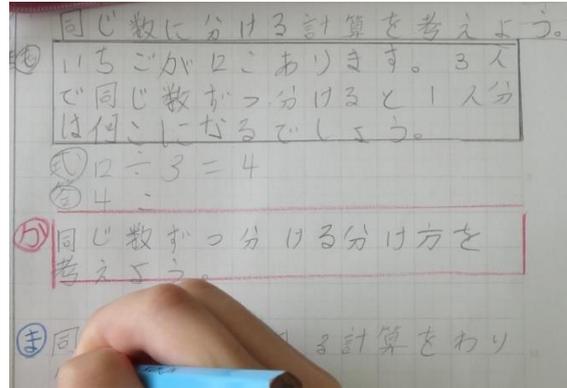


(写真4)

問題は黄色、課題は赤、まとめは青で囲む。
 (写真1、2、3、4) 児童には、問題は鉛筆で、課題とまとめは黒板と同じ赤、青で囲ませ、見やすいノートになるようにする。

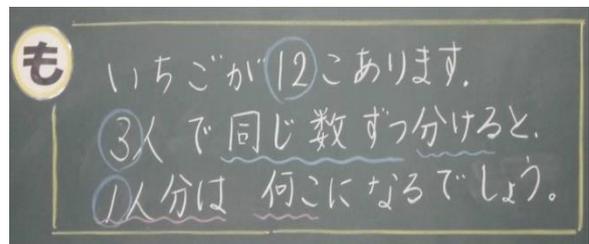
また、文章問題の場合は、問題文を正確に読み取るために、「わかっていること(数字)には青色の実線」、「演算決定の言葉には青色の波線」、「問われていることには、赤色の波線」をそれぞれ引かせる。(写真5) 児童の発言をも

とに、板書にも同様に線を位置づけていく。(写真6)



(写真5)

これらの取り組みを続けてきたことで、1時間の授業の流れが、ある程度パターン化してきた。そのため、児童は、次に何をしたらよいのか迷うことなく、見通しを持ち、集中して授業に取り組むことができるようになってきた。

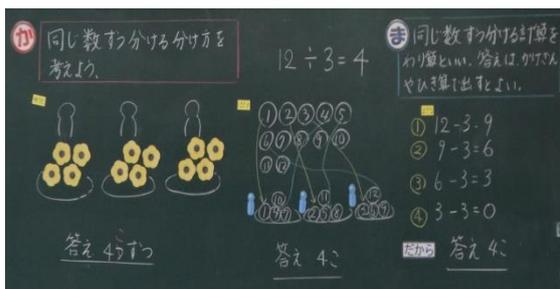


(写真6)

これらの板書について、児童は以下のような感想を書いている。

- ・ 色分けしてあるので、黒板のどこに問題
- ・ 課題・まとめが書いてあるかよくわかってよい。
- ・ 自分のノートも色分けしてあってわかりやすい。
- ・ ○や_____が引いてあると、何算になるのかよくわかる。
- ・ 分かりやすいので、自分で練習問題を解くときにも使っている。

(2) 児童の発言内容を整理・分類した板書



(写真7)

わり算（等分除）の学習で、本時、児童は4通りの考えを持つだろうと予想した。①おはじきを操作する考え方、②図をかく考え方、③引き算を使った式での考え方、④かけ算を使った式での考え方である。

写真7では、左から①②③の考え方を板書したものであり、写真8では、④の考え方を板書した。



(写真8)

それぞれの考え方を並列に板書することにより、おはじきの操作と図が一致することを視覚的に捉えられるよう工夫をした。また、おはじきの操作と図は、ひきざんの考え方につながることも視覚的に捉えられるようにした。さらに、④は、「引き算だけでなく、かけ算の式を使っても、割り算の答えをだすことができる」ことを、理解できるように位置づけた。

この板書により、おはじきの操作や図で考えていた児童も、式を用いて答えを出せることを理解できた。また、評価問題は板書を確認ながら、取り組み、理解を深めることに役だった。

【児童の感想】

- ・ 同じ考えや似た考えをまとめて書いてくれるからわかりやすい。

- ・ 同じの意見と違う意見を分けて書いてあるから分かりやすい。
- ・ 図と式が同じ意味だということがわかった。
- ・ それぞれの考え方がよくわかる。

3 実践を振り返って考えられること

意図的な板書により、児童が見通しを持つことができ、授業に集中することができると考えられる。また、自分の考えは、仲間の考えとどこが似ているのか、どのように関わっているのか、違う点はどこか等を考えることにもつながると考えられる。さらに、本時の学習内容を定着する練習問題等に取り組む時間を確保できると考える。

その他、算数の授業における板書については、次のような感想も書いている。

- ・ 式・考え・答えがまとめて書かれていて分かりやすい。
- ・ 大事なことを四角で囲ってあるところがわかりやすい。
- ・ 文字が丁寧でわかりやすい。
- ・ 何をどのようにやるといいのかわかりやすい。
- ・ 問題・課題・まとめ以外にも大切なことなどが色分けしてあってわかりやすい。

これらの感想からも、児童が板書を手掛かりに自分の考えを深めたり、仲間の意見を理解しようとしていたりしていることがうかがえる。今後も、児童の思考の助けとなる板書になるよう、事前に板書計画を立て、授業に臨みたいと考える。

また、私自身は、一単位時間の授業を考えるとき、まず板書計画を立てることにしている。そうすることで、本時のねらいや流れがはっきりするだけでなく、児童のつまづきも予想でき、それに対する手立てを明確に持って授業に臨む手助けとなるからである。